



地域の自然・人々と ともに学ぶ学校

大川小学校

大川小学校は、河北地区に位置し、南部は山地、北部は北上川が西から東へ流れ、東部は追波湾に面しているなど自然環境に恵まれた山紫水明の地域にある学校です。

昭和60年4月に大川第一小学校と大川第二小学校が統合され誕生しました。学区は東西11kmにわたるほど広く、全校児童111人の半数以上はスクールバスや自転車で通学しています。

保護者や地域の方々の学校教育に対する関心は高く、PTA活動・スクールボランティア活動への参加など非常に協力的です。

この恵まれた環境の中で豊かな人間性の育成と各教科の基礎・基本の定着、個性の伸長を目指し教育活動を行っています。大川小学校ならではの教育活動として、長面浦で力キの養殖などの漁業体験活動やしいたげ栽培を中心とした林業体験活動、米・野菜作りの農業体験活動などがあげられます。特に力キの養殖は、地元漁協の方々の協力により6年生を中心に取り組んでいます。

また、昨年まで文部科学省から「命を大切にすることを育む教育活動」の研究指定校として大川中学校と協力して活動に取り組みしました。今年も、引き続き、「人を愛し、地域を愛す」児童の育成を目指し、大川中学校と一緒に活動を行っています。



▲力キ養殖の体験学習

▲大川中学校と合同で大川クリーン活動

ます。北上川流域など地域をきれいにする「大川クリーン活動」や1年生から6年生で縦割り班をつくり、縦割り活動行事に取り入れています。このように地域の皆さんの協力のもと、自然環境に恵まれたこの学校で子ども達は、のびのびと成長しています。

にぎやか家族 ④⑧

新栄一丁目



写真左から、紘くん、将くん、凌くん

木村

しょう
将くん
りょう
凌くん
はな
紘くん

ん (13歳) 来年の日本ジャンボリー参加に向けてボイスカウト活動を頑張りたい
ん (10歳) 二期の勉強をきちんとおぼえたい
ん (7歳) 算数のひき算をがんばる

<お母さんから>

礼儀正しく、他人に迷惑をかけない人に育って欲しいです。

《一番がんばりたいこと》

今月の表紙から

今回は、9月13日(日)に桃生植立山公園で行われたものうふれあい祭で躍動感あふれる踊りを披露し、観衆を魅了した寺崎はねこ踊り保存会の皆さんの中から若山裕香さん、朋恵さん、英恵さんの姉妹に表紙を飾っていただきました。

寺崎はねこ踊りは、民俗芸能としては珍しく跳躍調で振りも華やかであることから県内はもとより、全国の民俗芸能研究者や愛好者に注目され、今年4月には、宮城県指定無形民俗文化財に指定されました。佐々木保存会会長さんは「はねこ踊りは、人をつなぐ魅力を持っています。ぜひ多くの方にその魅力を味わってほしい」と話していました。

さて、ふれあい祭が最も盛り上がるのが、「はねこ踊りパレード」です。市内外から集まった約1,200人が、次から次へとメインストリートに登場し、はねこ踊りを踊ります。

庄巻はやり保存会の皆さん!!
観客の声援が飛びぬけ、お隣りに踊り手が一体となり、お隣りにあわせて変化する複雑な振り付けを、踊り手は軽々とこなしく、流れるような踊りが繰り広げられます。「ソレ、ソレ」の声が夜空に響き、会場に集まった誰もが心を誘われ溶け込んでしまう瞬間です。

若山裕香さんは「姉妹で物心ついたときから踊っていました。これからも、このすばらしいはねこ踊りを、もっともっと広めていきたい」と話していました。



若山裕香さん(写真中央)、朋恵さん(写真右)、英恵さん(写真左)
〔桃生町寺崎地区〕

サークル仲間

なかま ④6

見ている人達が元気になる
ダンスを目指して!

チアダンスクラブ「ディアーズ」

年の5月に発足したばかりの、石巻では数少ないチアダンスサークルです。
チアダンスは、チアリーディングから端を発した、組み体操などのアクロバチック的な要素を除いたダンスで、ポンポンを両手に、軽快なリズムに合わせてながらパフォーマンスを繰り広げるスポーツ競技です。

現時点のメンバーは5人で、毎月第2・第4月曜日に、錦町の山下屋内運動場で、約1時間程度のレッスンをしています。

講師を勤める仙台市在住の千葉先生は、学生時代からチアリーディングで活躍され、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルス創設時のチアリーダーをしていた経歴の持ち主です。

サークルを発足するきっかけは、メンバー

の一人亀山さんの「華やかなイメージのチアダンスで、石巻を元気にしたい!」という思いからでした。早速講師の先生を探しましたが、



▲みんな笑顔で元気にレッスン!

チアダンスクラブ「ディアーズ」は、今シーズンは、石巻では競技人口が少ない、思い通りに見つからず、ようやく巡り会ったのが千葉先生でした。



▲「ディアーズ」の皆さん
(右脇が千葉先生、後列左が亀山さん)

先生でした。月2回、石巻へ来ることも快諾してくれただおかげで、2年越しの構想が実現しました。

5月に発足したばかりですが、2カ月後の7月には、中央児童館の児童館まつりでデビューを飾り、8月には、仙台七夕まつりでも披露するなど、意欲的にステージイベントに出演しています。

レッスンでは、ダンスの指導はもちろんですが、あいさつの作法や前回までの復習などについて優しい口調で話しかけ、レッスンを受けている子ども達も、最後まで笑顔を保つことがありませんでした。

取材した日、小学生2人の見物客がレッスンの様子を見に来ました。5人の小さな輪が、いずれば「石巻を元気にする」くらい大きな輪となり、さまざまイベント会場へ、見る人に元気を与えてくれることになっていきました。

※現在、会員募集中です!!

☎090-55955-5230

(担当亀山さん)まで。

長寿のひけつ



③8

よく働き、きちんと食べ、
楽しみを持つこと

玉澤しつかさん

(河南地区北村)

100歳



北村にお住まいの玉澤しつかさんは、明治42(1909)年9月に、同地区で生まれ、尋常小学校を卒業後、裁縫を習いながら農業に従事していました。29歳で玉澤一志さんと結婚、1男1女の子どもに恵まれました。

夫の一志さんが47歳で他界され、その後は農業の傍らお正月用品やお盆用品などの行商をしながら子ども達を育て上げました。現在では、孫3人・ひ孫7人の顔を見ることができたそうです。

元気なときには、温泉に行くことが大好きで温泉めぐりをしながら各地を旅行したそうです。90歳ごろから耳が遠くなったものの、自分の部屋から茶の間までは一人で移動しています。茶の間で、同居している長男のお嫁さんと雑談すること、「水戸黄門」のテレビ放送を見ることが毎日の楽しみになっています。

長寿のひけつは「身体を動かしてよく働くこと、好き嫌いをなく三食きちんと

食べ、お酒も少々たしなむこと、旅行などの楽しみをもちながら規則正しく生活してきたこと」のようです。

取材した日にしつかおばあちゃんは「お嫁さんにとっても長くてもういい隣近所の方とも仲良く助け合っって暮らしてきたので、みんなに感謝しています」と話し、お祝いに集まった方々に得意の替え歌を披露してくれました。